



# 楓

ふうえん

# 園

TOYO EIWA JOGAKUIN  
Public Relations Report

## 特集1

# 深町 正信 院長就任

## 特集2

# 東洋英和のクリスマス

- 7 NEWS 大学・大学院／中高部／小学部／東洋英和幼稚園／  
大学付属かえで幼稚園
- 12 英和の日々
- 13 この人に聞く 与儀 みどり
- 14 聖書の言葉／史料室レター／学院NEWS／訃報
- 15 英和星空探訪／桜プロジェクト報告／後援会より／お知らせ



水澤郁夫理事長・深町正信院長 就任式

2013年9月27日に新マーガレット・クレイグ記念講堂において執り行われた就任式には、来賓および学院関係者約110名が出席。新体制が始動しました。

# 深町 正信 院長就任



院長 <sup>ふかまち</sup> <sup>まさのぶ</sup> 深町 正信

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。  
ヨハネによる福音書 三章一六節  
キリストさえ、ご自身を喜ばせることをなさらなかった。

ローマ人への手紙 一五章三節

院長選考委員会での協議を経て、二〇一三年九月一九日開催の臨時理事会において新院長が選任され、一〇月一日に就任しました。深町正信院長の紹介とともに、九月二十七日に行なった理事長・院長就任式での水澤理事長と深町院長の就任の辞をご紹介します。

## プロフィール

一九三六年静岡県生まれ。一九五四年日本基督教団静岡教会にて堅信礼。

一九六一年東京神学大学院修士号課程修了、清水女子高等学校宗教主任就任。一九六三年米国デューク大学大学院に留学。その後、鳥居坂教会等の牧師を経て、一九八四年青山学院大学宗教学主任・教授に就任。

一九九〇年より二〇〇八年まで青山学院院長、二〇〇八年青山学院名誉院長、同大学名誉教授。名誉人文学博士（一九九四年アメリカン大学）他。二〇〇八年より和泉短期大学理事長。キリスト教学校教育同盟理事長、静岡英和女学院理事・評議員、東京神学大学評議員等も歴任。

本学院では、一九六七年から一九六九年まで兼任講師、一九七八年から一九九〇年まで短期大学非常勤講師を務める。二〇一二年五月に評議員、二〇一三年四月に理事・常務理事に就任し、一〇月一日より院長に就任。

ライフワークは『ジョン・ウェスレーとメソジズム』の研究。

家族は妻。息子三人、孫二人。趣味はスポーツ（大相撲観戦等）、音楽鑑賞（クラシックからBzまで）。

愛読書は聖書。愛唱聖句は、冒頭の二つの聖句と、箴言一九章二節「人の心には多くの計画がある、しかしただ主の、み旨だけが堅く立つ」。

## 英和での講師時代のことを伺いました



講師として参加した高三修養会（1970年代、天城山荘にて）

「ごきげんよう」のイメージそのままに上品でおしとやかであると同時に、活発で明るくフレンドリーだった英和生。授業以外にも、当時牧会されていた鳥居坂教会には多くの英和生が通っていて、毎年二、三名が先生から受洗していたそうです。短期大学の教え子も含め、今でも連絡を取り合っている卒業生も多いとのこと。



就任の辞を述べる水澤理事長

## 就任の辞

理事長 水澤 郁夫

就任に際し一言ご挨拶をさせていただきます。八二歳の私の中には、これまで聞いたたくさんのお話が詰まっておりますが、私にとってエポックメイキングな話が二つあります。一つは小学校入学の時の校長先生の話です。それは昭和十三年で、日本と中国が戦争を始めた翌年の四月六日です。雪が降っておりまして。私は母に連れられて雪の中をとぼとぼと小学校まで行きました。校長先生は「あなたたちは本当に幸せな年次ですよ。なぜなら今日は雪が降っております。雪が降っているとまわりの景色が全部雪で白く覆われる。あなたたちは雪になりなさい。雪になることを約束させられた年次なのです。これからいろいろなことが起きる。いやなこと、汚いこと、まずいこと、そういうのを君たち全部で覆いながら日本はこれから成長していくんだ、その雪になりなさい。」というお話をしたのです。私は感動を受けました。俺は雪になるんだ、と思ったのであります。

もう一つは、青山学院在学時代に欠かさず出席した礼拝での最も記憶に残っている奨励です。その奨励をなされた先生は気賀重躬先生とおっしゃいます。就任に際し一言ご挨拶をさせていただきます。先生は聖書をポケットから出してきて読むんですね。僕もポケットから出して読みました。それはルカによる福音書五章、簡単に言いますと、イエスがシモンに沖に漕ぎ出して漁をなさいと云った。ペテロが冗談じゃないよ、朝から俺たち一生懸命漁をしているけれど魚なんか採れないよ。イエスはぐずぐず言わないでとにかく沖へ船を出して網を下ろせということになって、そこには書いていないけれどペテロはいよいよ船を出して沖で網を下ろしたら、魚が山のように採れて、そこから大事なのですが、船が沈みそうになった。漁師にとっては最も喜ばしいことが起きたわけです。魚が採れなかったのに採れた、そうしましたら気賀先生が我々学生に申しますのに、君たち人生の中でそういうことがいくつでもある、神様のお恵みで喜ばしいことがいくつでもある。しかしその時にペテロは、船が沈みそうになったのに気がついて、イエスさん、勘弁してくれ、わかった、と言った。最も幸せな時に神様は最も厳しいことを半面

で教えているのだよ、それを忘れてはいけないよ、というのが気賀先生の私たちに学生への言葉でございました。私は今までそれを本心に忘れることなく、歩んで参りました。

今日は、東洋英和女学院の院長に、今の世の中で最もふさわしい方が選出されてご就任をするわけです。深町先生は青山学院の院長を十何年もおやりになった後、伝道の仕事をさらに進められておられたのを、懇願して東洋英和の院長に就任していただきました。東洋英和にとっては最も嬉しい、ユダヤの漁師たちにとってはいい魚がいっぱい採れて、一艘では足りなくてももう一艘という状況であります。その時に実は船が沈みそうなんだよ、へりまで水が来てるんだよ、それに気付け、こういうお話であります。深町先生は立派な先生で、東洋英和は今後何年かの間にもっともっと精神的にも学問的にも飛翔、飛躍するはずであります。その時こそ最も危険な時、最も神に助けを求めなければならぬ時がくるんだよということを、私はむかしむかし、昭和二五年に気賀先生が礼拝の時に話された言葉を明瞭に覚えておりますので、これを私の就任の言葉とさせていただきます。ただきたいと思えます。



## 就任の辞

院長 深町 正信

院長選考委員会の議を経て、去る九月一九日に開催されました臨時評議員会・理事会におきまして、はからずも、私は院長に選出されまして、本日、ここに水澤郁夫理事長とともに就任式を執り行つていただいておりますことを、心から感謝申し上げます。

このことを告げられましてから、私は、身の引き締まる、緊張の思いでいっぱいでありませす。正式には、来る一月一日から院長としての仕事を始めさせていただく予定であります。

もとより、私はまことに小さな器であり、微力な者ではありませんが、今は、東洋英和女学院の建学の精神であるキ

リスト教による「敬神奉仕」の校訓に基づき、幼稚園、小学部、中学部、高等部、大学、大学院を擁する東洋英和女学院の教育と研究の一層の充実と発展のために、ここにご参列の皆様とともに全力を尽くしてまいれる所存であります。何卒、ここにご列席くださいました皆様方のご指導、ご支援、ご協力を賜りま

すように心からお願ひ申し上げます。このたび、院長に選出され、私は、自分の非力を顧みず、本年、学院創立一二九周年を迎えている歴史と、伝統のある東洋英和女学院の院長の職をお引き受けしましたのは、旧約聖書の箴言一九章二二節に「人の心には多くの計

### 理事長 就任式次第

司式 事務理事 牧師 大宮 淳  
 奏 奏 学院オルガニスト 河野 和雄

前奏

讃美歌 21 120

聖書 マルコによる福音書 12章 28～31節  
 ローマの信徒への手紙 12章 1～8節  
 中高等学校教科書 牧師 高橋 貞二郎

祈禱 大学宮教主任 牧師 三上 章

報告 法人事務局長 西田 哲也

理事長就任の辞 理事長 水澤 郁夫

院長就任の辞 院長 深町 正信

祝辞 東洋英和学院大学 学長 武藤 元昭  
 大学 学長 村上陽一郎

讃美歌 21 557

頌 堂 27

祝 辞 大宮 淳

後 奏

画がある、しかしただ主の、み旨だけが堅く立つ」とありますが、このたびの私の身に起こった出来事を、そのように信仰的に理解してお引き受けした次第であります。主は常に私たちをそれぞれ主のご用に召されるとき、それを実現するために必要な一切の知恵と力と助けを必ず与えてくださると約束していただくからであります。この主の導きと助けを信じて、私は理事長をはじめ学校法人の役員の方、各部の教員と職員の皆様方、そして、全国に居られる多くの卒業生の方々、後援会の皆様の御理解とご協力をいただいで、去る五月二〇日に突然天に召された、前任の理事長、院長であられた池田守男先生の思いと願いと祈りを引き継いで、院長としての職責をこれから懸命に果たしてまいりたいと願うものでございます。

そこで、私は院長として、いわゆる、コンプライアンス、つまり、本学の定められた法、規則を遵守すること、ガバナンス、すなわち、東洋英和女学院の教学の統括責任を果たせるように努めてまいりたいと思っております。

各部の教学の実施と運営につきましては、その責任者である学長先生、部長先生、園長先生のご指導のもと、各



祝辞をいただいた静岡英和学院大学 武藤元昭学長



就任の辞を述べる深町院長

部の諸先生方、また、法人の局長、各部の事務長、職員の方々によりなされる訳ですが、これまで以上に、それぞれのお仕事、ご自分の責任を積極的に担っていただき、自主的、かつ建設的に取り組む、そして、お互いに協力し合つて、各自の責務を忠実に担ってくださることを切望いたします。何よりも、私たち教職員一人ひとりは、主イエス・キリストがこの学院の大黒柱であるとの認識のもと、今、この私たちが東洋英和女学院に召され、働く者とされている喜びと誇りをもち、使命感をもち、主に祈りつつ、自分の仕事に真剣に取り組むことができるような、明るい雰囲気、団気が常に東洋英和女学院の内外に醸し出され続けることを心から期待したいと思います。

したがって、当分の間は、まず、私がお一人おひとりとの人間関係をしっかりと持たせていただきませんと、その信頼関係ができませんと、院長としての仕事が多分できませんので、しばらくそのことに努めたいと願います。更に、東洋英和女学院の文化、歴史、特徴、現状、課題を自分の目でしっかりと知ること、学ぶこと、理解することに努めたいと願っています。

カナダ・メソジスト教会、現在のカ

ナダ合同教会の祈りと支援により始められた東洋英和女学院の女子教育の伝統と交わりを大切にしつつ、姉妹校である静岡英和女学院、山梨英和学院との交わりも大切にして、お互いの充実、発展にも資するようにしてまいりたいと思えます。本日、静岡英和学院大学学長、武藤元昭先生がご来校くださいます。したことを心から感謝申し上げます。

私は四つの事柄を大事にして、これからの東洋英和女学院の働きを考え、皆様とともになしていきたいと思えます。その第一は、「建学の精神の堅持と一層の具体化」ということでもあります。キリスト教学校、キリスト教大学としての東洋英和女学院は一方で「教育基本法」「学校教育法」「私立学校法」に基づき教育、研究をなす、日本の大事な公教育の一端を担ってききましたが、他方では、建学の精神であるキリスト教信仰により人間教育をなすという独自性をもつ学校、大学でもあります。誤解を恐れずに言えば、人間教育の核として、キリスト教学校とは礼拝する学校であるということができるとかと思えます。

第二は、本学院の「教育と研究の一層の充実」ということでもあります。そのために、総合学園としての「伝統と精神、教育環境の充実と整備と良い校風を育

てる教育にも一層努めていく必要があるかと考えます。第三に、「外部評価、第三者評価を積極的に受け入れ」て、本学院の教育と研究の更なる向上、充実をはかり、改めることは改め、教員と職員とが車の両輪となり、園児、児童、生徒、学生、院生たちの教育と研究を一層豊かなものとしてゆきたいと願います。第四に、「単年度の学院経営の赤字をできるだけ出さない」ように現場も協力することでありませぬ。私たちは何事かを計画し、実行しようとするとき、言わなくてもですが「人、もの、経済」を必要とします。そのことを考えながら、これからの東洋英和女学院がキリスト教学校、キリスト教大学としてより豊かな教育研究共同体としての形成を目指しつつ、主の導きを具体的にいたすべきながら、御一緒に東洋英和女学院のロードマップを描いていけたらと心から願うものです。

結びに、本日、ご多忙な中を、東洋英和女学院の新しい理事長と院長の就任式のために、お時間を割いて、ここにご列席くださいました皆様方お一人おひとりのおかげに、主の豊かな祝福をお祈り申し上げて、まずは院長就任の挨拶とさせていただきます。

# 東洋英和のクリスマス

## 大学

11月にアドヴェント夕礼拝とツリー点灯式、12月にはクリスマス礼拝が行われます。今年度のクリスマス礼拝では湊晶子先生(前東京女子大学学長)を説教者にお迎えし、オーケストラ、ハンドベル、聖歌隊の讃美とともに皆でクリスマスをお祝いしました。この時季は、学生の作ったクリスマスリースが飾られ、学内も華やいだ雰囲気になります。



## 中高部

中高部のクリスマスは、アドヴェントに合わせて宗教活動委員たちがツリーを飾りつけてくれることから始まり、朝の礼拝にもキャンドルが灯ります。クリスマス礼拝では、中学部は合唱と中1による降誕劇(タブロー)の上演、高等部は合唱やオルガン、ハンドベル、器楽科の演奏などがあり、美しい音楽とともにイエス様の誕生に思いをはせ讃美します。



イエス様のご降誕を待ち望む「待降節(アドヴェント)」に入ると、学院各部にツリーやリース、アドヴェントクラウンが飾られ、多くのクリスマス行事や礼拝が執り行われます。学院をあげてお祝いする東洋英和のクリスマスをご紹介します。

## 小学部

小学部のクリスマスは12月上旬に行われるアドヴェントをむかえる会から始まり、この頃になると各学年でクリスマスの飾り付けが行われ、校内がクリスマス一色になっていきます。

クリスマス礼拝では、講堂に全校児童が一堂に集い、聖書の朗読とページェントを見ながら、全員でクリスマスの喜びを分かち合います。



### 東洋英和幼稚園



幼稚園で飾るアドヴェントクランツを、どこから見ても素敵のようにと子どもたちがもみの木やヒバ、サンキライ、松ぼっくりなどで飾りをつけ、ロウソクに灯りを灯していきます。



アドヴェント礼拝ではホールの中真ん中に馬小屋を置き、子どもたちとお家の方と一緒に讃美の礼拝を捧げ、喜びに満ちた時となりました。

### 大学付属 かえで幼稚園

アドヴェントに子どもたちは、イエスさまのお誕生を覚えて、クリスマスの喜びをことばや、楽器の音や、ダンス等で表現します。またお家の方のことを思ってプレゼントを作ったり、献金のためにクッキーを焼いたりして小さな手を動かします。クリスマス礼拝当日は保護者の方と共に、おごそかに心をこめて礼拝をまわりました。



### 母の会

東洋英和幼稚園母の会ではアドヴェント礼拝・祝会、小学部・中高部の母の会ではクリスマス礼拝・祝会を行います。

### YWCA

中高部YWCAでは、クリスマスキャンドルサービスを行います。

### 同窓会

毎年12月の第1土曜日に同窓会はクリスマス礼拝を捧げます。今年度は穏やかな冬晴れの12月7日、「ここに神の愛が」と題し山北宣久牧師(青山学院院長)の説教とメサイアをうたう会の皆様の美しい女声合唱で主のご降誕をお祝いしました。お茶の会では恒例のフルーツケーキとミニバザーが好評でした。



### 学院

毎年12月上旬に、幼稚園、小学部、中高部、大学・大学院、法人事務局の教職員が集まって、全学院クリスマス礼拝・祝会がもたれます。今年度は小学部を会場に約150名が集い、皆でイエス様のご降誕をお祝いしました。祝会では、各部からのページェントや合唱などを楽しみます。



## 東洋英和女学院大学シンポジウム「これからの社会と女子教育」

副学長／国際社会学部教授 池田 明史

2013年10月20日、11月17日の2回にわたり、東洋英和女学院大学シンポジウムを開催しました。共通テーマ「これからの社会と女子教育」の下、学外からのゲストや中高部卒業生の阿川佐和子さんをモデレータにお迎えし、基調講演および活発なパネルディスカッションが行われました。



第1回 新マーガレット・クレイグ記念講堂(六本木校地)にて

本学が開学して間もない一九九二年には二〇五万人を数えた一八歳人口が、現在は一二〇万人を切るまでに減少しています。逆に、大学の数は五二〇校強だったのが七八〇校を数えるまでに増えました。こうした状況が支えられたのは、この間に大学進学率が著しく伸びたからにほかなりません。しかしながら大学は今後、進学率が頭打ちとなる中で一八歳人口の減少という現実に向き合わざるを得なくなりつつあります。

このように厳しい環境に置かれた東洋英和女学院大学の現在と将来とを冷静に見据えようとする試みの一環として、一〇月(六本木)と十一月(横浜)との両度にわたって本学主催のシンポジウムが開催されました。二回の催しを貫いている関心は、「いま、日本で、私学の女子高等教育に求められているものとは何か」という問題でした。

六本木パネル「女子教育とミッションスクール」の役割では、主としてミッション系女子大学の原点を振り返り、それらの「初心」を「いま・ここで」活かすためにどのような工夫がなされているかをめぐって議論が交わされました。創設者津田梅子らの思いがあちこちにさりげなく脈打っている事情が津田塾大学の三砂ちづる先生から紹介される一方、神戸女学院大学の内田樹名誉教授は女子大学の教育が卒業とともに終わるのではなく、むしろ人格的関係を介して連続し、男子学生への啓蒙という論点を射程に入れた本学の村上陽一郎学長を交え、壇上で活発な意見交換がなされて、ミッション系女子大学でしか担えない役割が確実に存在

するのだというところに議論は収斂しました。

横浜パネル「女子大学のこれから」では、秋岡陽フェリス女学院大学学長、福井一光鎌倉女子大学学長、そして本学の村上陽一郎学長が、それぞれの直面する問題を率直に開陳するところから始まりました。ともすれば重くなりがちなこの種のテーマが、モデレータ役の英和OG阿川佐和子氏の軽妙で洒脱な舵取りによって別視点から照射された。女子大学の存在意義の再確認につながったことは大きな収穫でした。かつては一握りの恵まれたエリート層を対象としていた高等教育は、もはやマス化の段階をも

通り越して、いわゆるユニヴァーサル化の局面に入っています。建学の精神はそのままに、しかし時代の変遷と学生の質の変化に対して適切に対処することの重要性を痛感させられる機会でした。

六本木では悪天候に、横浜では大きなスポーツ行事にぶつかりましたが、それぞれ聴衆の集まりもよく、このシンポジウムが成功したのは、立案から後片付けまで清楓会(学生自治会)の文字通り献身的な支えがあったからこそでしょう。彼女らの甲斐甲斐しい姿が、「母校」は「母港」であるべきだとのパネリストの一人の言葉と重なり合いました。

2013年度東洋英和女学院大学シンポジウム	
第一回	開催日: 2013年10月20日(日) 13:00~17:00 テーマ: 「女子教育とミッションスクールの役割」 場 所: 新マーガレット・クレイグ記念講堂 (六本木校地) パネリスト: 内田 樹 神戸女学院大学名誉教授 村上 陽一郎 東洋英和女学院大学学長 モデレータ: 三砂ちづる 津田塾大学教授
	開催日: 2013年11月17日(日) 13:00~17:00 テーマ: 「女子大学のこれから」 場 所: パシフィコ横浜 パネリスト: 秋岡 陽 フェリス女学院大学学長 福井 一光 鎌倉女子大学学長 村上 陽一郎 東洋英和女学院大学学長 モデレータ: 阿川 佐和子 作家・エッセイスト
	(敬称略)



第2回 パシフィコ横浜にて

## 東洋英和こころの相談室のご紹介



面接室



プレイルーム

東洋英和こころの相談室では、一般の皆さまにご利用いただける相談室として、少しでもお役に立てればと考えております。カウンセリング（ことばによる面接）の他に、プレイセラピー（遊戯療法）、箱庭療法、絵画療法、心理アセスメントも行っており、幅広い年代の皆さまから相談をお受けしております。当相談室は大学院生の研修機関を兼ねており、教授陣・専門家の指導の下、臨床心理学専攻の大学院生・修士生が担当いたします。

場所は、大学院校内で、交通至便な六本木・麻布十番駅にほど近く、緑に囲まれた鳥居坂上にございます。平日は午後二時から夜八時まで、土曜日も開室しておりますので、お仕事帰りなどでもおこしいただけます（開室時間は曜日により多少異なります）。面接料金は初回面接四〇〇〇円、継続面接三〇〇〇円、親子面接五〇〇〇円（いずれも五〇分）です。

### —お申込みからご相談までの流れ—

1. 電話によるお申込み(完全予約制:03-3583-7463)  
お申込みのお電話にて、来室のご都合などをおうかがいします。
2. 受理(インテーク)面接  
お困りのことについてうかがう初めての面接です。臨床心理士の資格を持った者が担当します。他に適切な機関があると考えられる場合にはご紹介をいたします。
3. 心理面接(各種セラピー)  
当相談室でお引き受けすることが決まった場合、担当者を決めて、継続して心理面接(各種セラピー)を行っていきます。

詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/shisetsu/kokoro.html>

## 年表には出てこない「歴史」を見よう

講座名「ドイツ文化史—《風景》という文化」

講師 森 涼子



今年度は「風景」をめぐるドイツ文化史を学んでいます。特にラインの風景に注目しています。「父なるライン」はドイツ史の宿命を背負った川であり、同時に、ケルン大聖堂、ローレライなど我々に馴染み深い観光名所が多い川でもあります。ヴィール原子力発電所反対運動が、ドイツ環境運動の発端となりますが、これもライン河畔でした。聖堂建設もローレライ伝説も、ドイツ史と深く結びついていました。ラインを旅する人びとがどのような目でライン川を見てい

たのか、ローレライで美女が金髪をとかすようになったいきさつなど、教科書には出てこない出来事を取り上げ、なぜそういう事態になったのかを共に考えています。「何年に、何が起こった」というのではなく、当時の人たちが何を感じ何を考えていたのかにアプローチしたいと思っています。私が一方的に情報を発信するのではなく、受講者の皆さまとの対話を重視しています。「そういうことって、他の国にもあった?」「当時の旅行者はどこに泊まっていた?」「ゲーテの『野バラ』ってどんなバラ?」など、受講者の方々との想像はさまざまに膨らんでいきます。このように自由に思いめぐらすことが「歴史を学ぶ」ことであり、歴史を学ぶ面白さはここにあります。来年度のテーマは『自然』という文化の予定。年号を覚えるのが苦手だから歴史は嫌いという方にこそお勧めしたい講座です。



## 中高部夏期修養会「福島の子どもと架ける虹の橋」— 軽井沢追分寮にて

中学部長 露木 美奈子



追分寮の庭で。だるまさんがころんだ!みんな真剣です

「福島からのメッセージ」と題して行われた去年の修養会で学んだことを土台にして、福島の子どもたちをお招きして行う修養会という方向が早くから打ち出されていました。まず、修養会の翌週に南相馬に足を運び、原町教会の朴貞蓮牧師と出会うことができました。この出会いから原町聖愛保育園の年長組のみなさんをお招きしての修養会が現実のものとなりました。

最近参加者が一〇名を割ることもしばしばでしたが、今回は嬉しいことに、中三から高三まで三五名の生徒の参加がありました。六月には保育園から年長組の子どもたちの顔写真が届き、事前に参加者に配りました。南相馬に毎月通い続けている日本ボランティアセンターの谷山由子さんや東洋英和幼稚園の鈴木園長先生にも事前レクチャーをしていただきました。

八月一日バスで学校を出発し、南相馬からバスと新幹線乗り継いで到着する子どもたちのために先に追分寮に行き、準備をしました。園児二〇名、保護者五名、先生方四名が到着後チャペルでの開会礼拝。レッサーパンダのレッサー君の腹話術も交えての高橋貞二郎先生によるオリエンテーション後、ほぼ三対二でお姉さんと子どもたちがペアになって寮内案内。学年ごとに準備したリクリエーションをして夕食まで遊びました。お姉さんと子どもたちが一緒にテーブルを囲み、食前の感謝は英和生と年長さんが二人並んでしました。夜のお楽しみ会では、ハンドベルの演奏後、子どもたちも演奏し、満足そうな表情でした。絵本の読み聞かせをして子どもたちを寝かせた後は、園長先生や南相馬の身障者施設の方の体験談に耳を傾けました。その後のミーティングでは、担当の子どもたちに関しても共有しておくべき情報を報告しました。子どもたちをよく観察して対応している様子に感じました。

二日目、午前中は干ヶ滝での水遊び組とブルーベリーを摘んでジャム作りをする組に分かれました。寮に戻って昼食とお昼寝後は、庭でスイカ割りとお遊び。すっかり馴染んだお姉さんに抱きついたりおんぶされたり、追っかけたり追っかけられたり。夕食後は「虹



お食事のお祈りも一緒に

の会」で、スライドショーを見ながら二日間を振り返り、「きつと明日はいい天気」というリフレインで終わる「虹」を皆で歌いました。子どもたちが裂き織りで作った小物入れが手渡されると、早くも涙腺のゆるむ英和生でした。

三日目、夜遅くまで子どもたちへの手紙を寄せ書きしていたお姉さんたちは眠そうです。閉会礼拝の後、再度レッサー君が登場し、「お祈りすることとつながっているよ」とのメッセージを送られ、子どもたち。記念撮影の後、福島の方々が先に出発しました。後から届いた先生方からの手紙によると、帰りのバスの中で、子どもたちは別れ際に渡されたお姉さんたちからの手紙を出して文字を拾い読みして喜びを囁みしめ、一緒に歌った歌を歌い、家に帰ってからは「また会いたい」と涙していたそうです。保育園では年長さんは、年下の子どもたちにお姉さん風を吹かせてみたり、変化が

みえるそうです。最後に園長の遠藤先生からの手紙の一部を掲載させていただきます。

「震災後は、おとなが感じている閉塞感を子どもも肌で感じ、限られた環境の中に閉じ込められた生活を強いられてきましたので、このたび戸外活動が伸び伸びできたこと、人の温かさにも触れたことは、子ども自身も感じている目に見えない拘束から、解放される思いを味わったのではないかと思います。(中略)「追分寮」での三日間は、職員も保護者も、日常の喧騒から離れて清らかな空気を胸いっぱい吸い込み、自然の豊かさに触れ、愛があふれる生活環境で静かにゆつたりと満たされた時間を過ごさせていいただきました。」

私たちが福島からいらした皆様から多くを学ばせていただきました。そして東洋英和の生徒たちの自然体でいながら思いやりのある行動力に何度も心を動かされました。

最後に、修養会をお支えくださった昨年度と今年度の母の会の皆様、同行し一部始終を見守ってくださった同窓会長の松本幸恵様に心からお礼申し上げます。カナの婚礼の召使いのように、私たちは豊かに水を満たして婚礼の場に運んだにすぎません。芳醇な葡萄酒に変えてくださった方の存在を最初から最後まで感じた豊かな修養会でした。

## 鑑賞の日「ノアの箱舟と秘密のくぎ」



「ノアの箱舟と秘密のくぎ」より

小学部では、毎年子どもたちに劇や伝統文化に触れる機会を設けており、鑑賞の日として親しまれています。二〇一三年の鑑賞の日は六月二十五日（火）に行い、「ノアの箱舟と秘密のくぎ」という題の劇を鑑賞しました。卒業生の瓜生恭子さんと東京エスカルゴが中心となって劇団俳優座と文学座の協力を得て作られた劇で、小学部のための描き下ろしでした。ノアの箱舟をモチーフにした、箱舟内でのノアの家族の笑いあり涙ありの物語で、最後は神様の愛で締めくくられる感動的な展開となり、劇が終わってからも子どもたちは感激の渦に包まれていました。

### 瓜生さんよりいただいたメッセージ

この度、愛する母校東洋英和女学院小学部の鑑賞の日で舞台上演の機会をいただく事ができました事を、心より感謝申し上げます。

作品を制作するにあたり、何をテーマとして生徒さん方に伝えるべきかをまず考えました。私自身は幼稚園から高校卒業までの一四年間を、ここ東洋英和女学院にて過ごしました。そこで一四年間変わらずに教えられ続けたのが「敬神奉仕」、神を敬い信頼し、隣人に仕える、というメッセージでした。そしてそれこそが、学校を卒業し社会に出てからも、今なお強く私自身の生き方の指針となり、人生という旅路における方位磁石ともなっていることに気付かされたのです。

私が現在携わっている音楽や演劇という世界は、価値観も感受性も多種多様、またポストモダンを叫ばれている現代、唯一の真理を信じる事が難しく且つ不毛のように評価され易い時代にあります。数え切れない程の選択肢を前に、何を選び取り進んで行くべきかを決断する事に非常に困難を覚える事もしばしばです。しかし私が幼少時代から教えられてきたキリスト教信仰に基づく一つひとつ、特に一般社会から見れば、眼に見えない「神を信じる事や、自分が損をする事を選ぶかのように一見思われがちな「人に仕える」という事こそが、今までの私自身の道を切り開き、道なき所に道造ってくれたと、はつきり申し上げる事ができます。そしてそれはこれからも決して変わる事はありませぬ。東洋英和女学院か

ら受けたこの計り知れない恩恵の一部だけでも、一つの舞台を通し表現し、それを通して大切な後輩方にお伝えできればと思います、「神様の愛」をテーマとして選んだ次第です。

本番当日、舞台袖で生徒さん方のわあっという歓声を聞いた時、胸が熱くなり、涙がこみ上げました。あの素直でのびのびとした自由な姿勢、これこそが英和だ！と自分自身のかつての姿とオーバーラップし、何とも言えない感動に包まれた事を今でも覚えています。舞台の初めから終わりまで、生徒さんの温かい声援と笑い声に支えられ、心から感謝の思いでいっぱい

です。特に劇中歌「ことりたちは」を一緒に賛美してくださった場面、劇の中での祈りのシーンで一緒に祈りの姿勢を取り「アーメン」と言って一緒に祈ってくださった場面、その一つひとつが色鮮やかに脳裏に焼き付いておられます。

公演後、生徒さんお一人おひとりからお手紙をいただきました。出演者の名前まで覚え、優しくユーモアに満ちたかわいらしいメッセージを出演者すべて感激しながら拝読いたしました。

舞台大詰めのシーンで、「人の心に空いてしまった穴は人間の力で埋める事はできない。それは神様の愛によつてのみ可能なのだ」とノアの妻が語ります。これは私自身の経験でもあ



鑑賞の日を終えて、感謝をこめて

り、聖書の示す真理でもあります。私はこの真理と、神様の溢れんばかりの愛が降り注がれている事が伝わるように、と祈りながらおりましたが、生徒さんのお手紙の中で、その事を皆さまがしっかりと受け止めていてくださる事を感じ、英和の生徒さんの心の清らかさや素直さを、改めて驚きと共に感じ入りました。

この日の事を後輩の皆さま方が幼き英和での日々の一思い出として、心の片隅にでも覚えていていただければ、これほどうれしい事はございません。これから待ち受けている人生のさまざまな船旅の中でも、ノアとその家族が神様の愛を信じ乗り越える事ができたように、後輩の皆さま方が豊かに神様の愛に守られ歩まれて行かれますよう、心よりお祈り申し上げます。

## バンングラデシュに思いを寄せて 一母の会の活動より



折り紙を作る  
お母さま方

九月のある朝。幼稚園の厨房から本格的なカレーの香りが漂っていました。この日の母の会は幼稚園が長年支援する国・バンングラデシュを理解するため幾つかのプログラムが用意されていたのですが、その一つ、在日バンングラデシュ人のシェフの指導によるカレー作りが始まっていたのでした。食文化は他国を理解する上で大きな手掛かりとなります。ターメリックやシナモンなど十種類以上のスパイスが入ったカレー、小麦全粒粉と水と塩を練って作るチャパティ、ヨーグルトの飲み物・ラッシーが

次々に作られ、母の会の最後に美味しくいただきました。

厨房の隣のホールではアジアキリスト教育基金(エイセフ)のスタッフの方によるバンングラデシュの基本情報クイズを行いました。既婚女性が身につけるサリーが六メートルもあること、日本生まれの人力車がリキシャと呼ばれて現代のバンングラデシュで大活躍していることなど、笑いと驚きのある楽しいひと時となりました。

三年前にエイセフのスタディーツアーに参加した村上さんの報告もありました。村上さんは幼稚園から高等部まで学んだ卒業生です。生活や文化が日本とは全く異なるバンングラデシュでの二週間のツアーのなかで感じたこと。その経験を今後どのように生かしていきたいか。ツアーでの経験を真摯に受け止めている村上さんのお話に、お母さま方は時に目頭を押さえずつつ聞き入りました。「数年後の我が子もかくあつてほしい」と思われたのでしょうか。

寺子屋学校で学ぶ子どもたちへの応援の気持ちを込めて沢山の折り紙を作り、エイセフのスタッフの方に託しました。次回の訪問の際、バンングラデシュの子どもたちに届けてくださる予定です。

## 大学付属 かねで幼稚園

### —早野の里山で過ごす子どもたち—

かねで幼稚園から路線バスを使って二〇分ほどの所に『早野』という地名の里山があります。自然がそのままに残っている場所であり、川崎市と東京農業大学の鈴木貢次郎先生のご理解により、二〇一三年の三月より、かねでの子どもたちが出かけて行って遊ぶことを許していただいています。

二〇一三年一〇月、年長組の子どもたちにとっては、四回目の『早野』です。回を重ねるごとに、森や林や里の中で遊ぶことが上手になっていく子どもたちは、秋のひとつうに楽しみました。

面白い形をした木を見つけた子どもが、一緒に遊んでいたなかに「この木はおもしろいよ、帽子がたかさなかけられそう」と言って、自分の帽子を木の枝にかけました。するとそれを見た何人かの子どもたちも「本当だ、ぼくのも」と言っ



帽子屋さんごっこをする子どもたち

て次々に帽子を枝にかけていきました。しばらくすると、その木では帽子屋さんごっこが繰り広げられていました。

虫眼鏡を手に持ち、落ちているドングリをじっと見ている子どももいました。「このドングリは穴が開いているけれど、この中に虫がいるのかな」「私にも見せて」と友だち同士が寄り添っている姿も見られました。森の中に落ちていて、木の実、葉っぱ、セミの抜け殻、また森に生きている虫たち、その中には驚きや発見がたくさんありました。林の木もれ日の中、のんびりとスケッチブックに絵を描く子どもや登りやすい木を見つけて木登りをしている子どももいました。私共保育者は、神さまのくださった自然の中で、風や光を感じながらたっぷりと遊べる幼児期を保障してあげられる幸せを感じています。

## 東洋英和幼稚園

### 父と遊ぶ日 10月12日(土)

三・四歳児の子どもたちがお父様と小学部のグラウンドで身体を動かして遊びました。帰る前にお父様へ秘密で作ったプレゼントを渡しました。

### どんぐり拾い

10月15日(火)

福島県にある聖テモテ幼稚園のために、赤坂の氷川神社までどんぐりを拾いに出かけました。どんぐりにはいろいろな形があることに驚きながら、袋いっぱい集めました。

### りんご園 11月15日(金)

五歳児が、長野県上田市でりんごを収穫しました。あいにくの雨でしたが、おいしいりんごをいただき、みんなでゲームをしたりして楽しく過ごしました。



どんぐり拾いをしている子どもたち

## 大学付属かえで幼稚園

### 五歳児追分キャンプ

8月28日(水)～30日(金)

神さまに守られていることを感じ祈り合って過ごした三日間でした。

### 四・五歳児ファミリーデー

10月19日(土)

大学にて、家族でからだを動かしたり、秋の自然の中をオリエンテーリングしたり、大学生とスタジイを煎って食べたり等しました。

### 三歳児オープンデー

10月21日(月)

ファミリーデーの代休を活用して三歳児だけの幼稚園を保護者と共に楽しみました。

### 創立記念日礼拝・音楽会

11月6日(水)

宣教師の先生の働きと神さまの導きに感謝し礼拝を守りました。



3歳児オープンデー

## 小学部

### 修学旅行

9月17日(火)～20日(金)

行き先は京都と奈良。吉野では柿の葉寿司と和紙すきの体験もできました。

### 秋の遠足 9月27日(金)

秋晴れの中、一年生から五年生が遠足に出かけました。気持ちのよい空の下、とても良い汗をかくことができました。

### 創立記念日礼拝

11月6日(水)

今年も元中高部長の佐藤順子先生をお招きし、メッセージをいただきました。

### 学芸会 11月29日(金)

今年も二・四・六年生が劇を演じました。六年生は子どもたちが中心となり、クラス毎に劇を作り上げることができました。



秋の遠足

## 中高校

### キャンプ(野尻湖)

8月2日(金)～7日(水)

今年もキャンプのまとめを一日にし、各々が選択した水泳、ボート、ヨット、カヤック、戸隠ハイキングを楽しみました。

### 楓祭

10月25日(金)、28日(月)

今年も台風の接近で二日目を延期し大変ご迷惑をおかけしました。テーマは「千紫万紅」。色とりどりの花のように、英和生の個性が発揮されました。

### 中学部球技会

11月22日(金)

クラスが団結し、バスケット、卓球の試合をしました。休み時間や放課後にチームで練習し、友情を深めていきました。



中学部球技会 クラス一丸となって燃えました!

## 大学・大学院

### 【大学】

#### かえで祭

11月2日(土)・3日(日)・祝

今年のテーマは「Bouquet」。模擬店出店やクラブ発表が行われ、三日には保護者と教職員の懇談会も開催されました。

#### チャペルコンサート

11月15日(金)

本学教授飯島千雅子先生(ソプラノ)、本学非常勤講師深井李々子先生(オルガン)、三澤美佳さん(フルート)によるコンサートが催されました。

### 【大学院】

#### 学位授与式・後期入学式

9月21日(土)

学位授与式(修了生六名)・入学式(新入生五名)が実施されました。



かえで祭 ウィンドアンサンブル部



## 東洋英和で教えられた大切なこと

幼稚園から英和で学び、短期大学英文科を卒業してから現在まで、美容師として、経営者として第一線で活躍されている与儀さん。人生のさまざまな節目に立ち会い、美しく装う仕事を通じて感じていること、そして、与儀さんの基礎となっている英和で培われたことを教えてくださいました。



バスケットボール部時代、佐々木先生と  
(一番左が本人)

度々痛感いたします。何十年経った現在でもあの経験はかけがえのないものであったと、覚えさせられました。いやがおうにも忍耐を限界を突きつけられ、普通ではなかったのでしょう。一人っ子で自分の思う通りに何でもできると思いついていた私でしたが、バスケの練習を通して己の体力と精神力の限界を突きつけられ、

母が経営していた美容室をそのまま受け継ぎましたので、何十年、何世代にも渡っておつきあいといったお客様もいらっしゃいます。そして結婚・結婚式・お宮参り・七五三・成人式・授賞式・葬儀と、毎年大勢の方々の人生の節目に立ち会わせていただいています。仕事を通じて、「女性として社会人として、人生をどう生きるか」といったヒントを学ぶ機会に恵まれているのは大変ありがたい事と感じています。

■よぎ みどり/美容師。「与儀美容室」(ホテルオークラ東京内)経営者。幼稚園から短大までの16年間で東洋英和で過ごす。短大卒業後の1966年に母親が経営する与儀美容室に入社し、現在に至る。通常の業務以外にも、多数の結婚式・授賞式・記者会見・撮影といった華やかな行事で裏方として活躍。皇室の妃殿下および内親王様たちのお支度も担当。

<http://www.yogi.co.jp>

幼稚園から短大まで一六年間に渡り、東洋英和で学びました。美容師の資格は通信教育で取得しましたので、私にとつての学校は「東洋英和一校のみ」と言い切っても過言ではありません。短大卒業後は直ちに母が経営する美容室に勤め、二人の子どもの育児に専念した数年間を除いてはずっと美容師の仕事が続けて参りました。

英和での日々を思い起こすと、まず思い出されるのは幼稚園の主任でいらした高橋千恵子先生です。幼稚園という社会に初めて進出した。最初に会ったのが高橋先生でした。白いブラウスに紺のスーツ姿の先生はいつも明るく爽やかで、優しく、けれども言うべき事はきちんとおっしゃる、知性に溢れる方でした。柔らかさと同時に凛とした姿勢を持ち合わせていらした先生には、単に「素敵な女性」という面だけではなく、「職業婦人のあり方」を見せていただいた気がいたします。幼心に芽生えた「こういう女性になりたい」との強い尊敬の念は、後年私の仕事の倫理観の基礎になったと確信しています。

中学高校時代はバスケットボール部に所属し、毎日練習に明け暮れました。お若くて血気盛んでいらした佐々木先生のご指導は過酷そのもので、「こんな厳しい部活は辞めてやる！」と恨むくせに決してそうはせず、「成績が下がったらバスケを辞めさせられるかもしれない」と勉強にいそむという矛盾を抱えながら、バスケに夢中になっていました。インターハイに二度出場するという歴史的快挙を達成した世代でしたから(残念ながら二度とも一回戦で敗退)、部員たちに対する先生の打ち込み方も普通ではなかったのでしょう。一人っ子で自分の思う通りに何でもできると思いついていた私でしたが、



ノーベル賞受賞の山中教授ご夫妻と。ストックホルムに同行  
(2012年12月)

今でも試練と向き合わされた時には、「聖書には『神様は)あなたがたが耐えられないような試練に会わせることはない』と書いてあるし、そもそも私は六年間もあの佐々木先生のおんなにも苦しいしごきを耐え抜いたのだ！」と自分を奮い立たせます。

毎朝のお礼拝を通して聖書の言葉とキリスト教の教えは沢山耳にして参りました。その中でも最も重要な要素は「奉仕の精神」ではないでしょうか。損得を抜きにして他人に尽くそうとの気持ちとはとても尊いものですね。なかなか実行に移せないでいたとしても、「もうしたい」と願う心を持ち続ける事が大切なのでしょう。

友情に深く感謝いたします。天に召された友もある中、日々の時間を大切に過ごして行きたいと願っています。

# 聖書の言葉



鳥居坂教会

鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。

コリントの信徒への手紙二 三章一八節

造形芸術の中には動かないものではなく動くものを、さわって動かすことができる、その動きを表現とする作品があります。物が変化する姿を見せます。

旧約聖書の伝統のもとで作品を造っている人の話を聞いたことがあります。ここでは人が土で造られたこと、そして、土だから土にかえるということ、そこに神による創造の御手をみるということです。日本人の感性に通じるところがあります。形が定まらず、変化して消えていく、そこに美を見いだし、造られたものの麗しさを見ようとします。

確かに、私たちの姿かたちは変わっていきます、しかし、その変化の中に、神の恵みが受け取られ、映し出されていくのです。そうして、主と同じ姿に造りかえられていく、と聖書の言葉は語っています。

鳥居坂教会牧師 理事・評議員 張田眞

## 学院 NEWS

### ● 卒業生がNHK連続テレビ小説の主人公に!

2014年春のNHK連続テレビ小説「花子とアン」は、『赤毛のアン』シリーズの翻訳者、村岡花子さん(1910年女学校本科・1913年高等科卒)の半生記です。原案は孫の村岡恵理さん(1986年高等部卒)の著書『アンのかご 村岡花子の生涯』(新潮文庫)、脚本は中園ミホさん、花子さん役は女優の吉高由里子さんです。放送は2014年3月31日スタート。前半に東洋英和が舞台となるシーンが多く見られそうです。



脚本家  
中園ミホさん(右)と  
村岡恵理さん(左)

おたよりコーナー「TOYO Wa-Wa」へのお便りお待ちしております!  
〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院 法人事務局総務企画部  
email: koho@toyoeiwa.ac.jp

### 訃報 — 心より哀悼の意を表します—

ディビッド・ウィンター氏	大学非常勤講師	2013年8月17日
丹羽 淑子氏	元短期大学教授等	2013年8月20日
高瀬 昭氏	中高部校医	2013年9月15日
中村 隆英氏	大学名誉教授、元大学教授等	2013年9月26日
三宅 泰子氏	元小学部教諭	2013年10月29日
船越 玲子(船越 富美子)氏	元音楽科教諭	2013年11月28日
平山 正実氏	元大学教授等	2013年12月18日

## 史料室レター No.12

### 「ハックルベリィ・フィンの冒険」、 「フランダースの犬」などの印税



村岡花子さん  
(東洋英和女学校在学の頃)

本年はNHKの朝のドラマばかりでなく、「村岡花子」をテーマに各地で企画展が計画されています。英和の学院史料展示コーナーでも、三月から一〇月ごろまで、「村岡花子と東洋英和」をテーマにした展示を行います。

ところで本学院には、花子さんの遺言により、新潮文庫の数冊の印税がそっくり、四〇年以上寄付され続けていることは、案外知られていません。卒業生として母校の名を高め、同窓会副会長もしてくださった村岡花子さん。こうした形で今も英和を支援してくださっていることを、感謝して覚えていたいと思います。

史料室連絡先 ● TEL:03-3583-3166 FAX:03-3583-3329  
E-mail: archive@toyoeiwa.ac.jp

## 彗星

昨年は日食や月食のような目立った天文現象はありませんでしたが、春にパンスターズ彗星、そして年末にはアイソン彗星が話題になりました。

さて、この彗星は一体どこからやってくるのでしょうか。その正体とはどんなものなのでしょうか。

その昔、太陽系ができた頃、ガスやチリが集まって小さな天体がたくさんできました。多くものは合体して惑星になりましたが、あるものは先にできた惑星の重力により、太陽系の外側の方に押し出されてしまいました。小天体は太陽が小さな点にしか見えないような遠く冷たく寂しい空間で、長い年月をかけて太陽の周りをまわります。そこに何らかの力がかかるとバランスが崩れて、太陽の方に引き寄せられます。太陽に近づくにつれ表面温度が高くなり、溶け出した物質がガスとなり、その小天体のまわりを覆います。それが太陽風という太陽から流れる高温で電離した粒子(プラズマ)の流れに



ヘールボップ彗星  
1997年3月31日 撮影：北崎勝彦  
撮影地：日光霧降高原



チュリュモフ・ゲラシメンコ彗星  
へ接近するロゼッタの想像図  
©esa

煽られて尾のように見える。これが彗星です。

地球は水の惑星と呼ばれるほどたくさん水があり、多くの生命が繁栄していますが、最近では、その水は彗星がもたらしたものと考えられています。今から四〇億年ほど前、太陽系は不安定で、初期の地球にはたくさん彗星などの小天体が衝突し、地球の表面温度は二〇〇〇度にも達していました。その後次第に太陽系も落ち着き始め、地球も冷えてくると、彗星が運んできた水分は雨となり、やがて海ができました。彗星は水だけでなく、炭素や窒素・酸素も運んできたと考えられています。私たちの体を構成するこれらの元素が、彗星によって運ばれてきたということなのです。何とも不思議な感じですね。

今年十一月、esa(欧州宇宙機関)の探査機ロゼッタが史上初めて彗星に着陆して探査をする予定です。初期の太陽系のデータがタイムカプセルのように詰まっている彗星からどんな事が解るのか、非常に期待をされています。

## 桜プロジェクト実行委員会からのご報告

### “ありがとうの桜”がこの春花を咲かせます

東洋英和女学院の創立者ミス・カートメル以来、教会や地域の支えで遥か遠い海を越えて100名を超えるカナダ婦人宣教師が私たちの東洋英和に派遣されたことを私たちは忘れません。『カナダ婦人宣教師物語』は多くの方に読まれその感動から生まれた桜プロジェクトがスタートして間もなく3年。先生方のあつい信仰と尊いお働きを覚えこれを永く記念するためにミス・カートメルの故郷カナダのオンタリオ州ハミルトン市に桜の苗木を贈る計画がついに実現します。

幸いな事に英訳本の協力者であり、ミス・カートメルの母教会であるセンテナリー教会の副牧師もされた有賀誠一先生の調整役によってハミルトン市が私たちの願いを喜んでお受けくださり、桜の植樹が雪解けを待って行われます。カートメル先生のご生誕地ソロルドの桜並木はミス・カートメルレーンと名付けられ春の開花を待っています。たくさんの方のありがとうを春の度に伝えてくれる事でしょう。

募金の状況	目標額500万円
収入合計	5,065,000円
支出合計	2,745,895円(概算200万円送金予定分含む)
現在残高	2,319,105円
募金件数	253件(2013年7月末まで)

卒業生、およびそのご家族、生徒、現旧教職員、姉妹校同窓会など皆様の尊いお志に深く感謝申し上げます。ここに報告いたします。

\*記念しての旅行を計画中ですが詳細は同窓会HP等でご案内いたします。

## 後援会より

### 2013年度後援会役員懇談会報告

10月4日(金)、後援会役員懇談会がANAインターコンチネンタルホテル東京で開催され、出席者数は学院側も含め約140名でした。学院各部を8つのグループに分けて行われた分科会において、家庭での子どもの様子、通学時の安全確保、受験対策、留学、大学生の就職活動などについて、後援会役員と教職員が活発に意見交換を行いました。



高等部部門の分科会



全体会

### 2014年3月卒業予定のみなさんへ

「楓園」は、年3回の発行のうち、9月号と1月号が「東洋英和楓の会」により同窓生全員に無料配布されます。また、学院ホームページに毎月掲載しますので、卒業後も是非読んでください!

東洋英和女学院 学院報 楓園 第73号

発行日：2014年1月31日  
編集：広報委員会  
発行：学校法人 東洋英和女学院 東京都港区六本木 5-14-40 Tel:03-3583-3325  
メールアドレス：koho@toyoeiwa.ac.jp ホームページ：http://www.toyoeiwa.ac.jp